

開講学科	基礎教育センター	前橋工科大学 シラバス			
科目名	生命倫理、Bioethics	標準対象年次	選択／必修	科目コード	
		2年次	選択	12002201	
担当教員	服部 健司	単位数	学期	曜日	時限
		2単位	前期	火曜日	2時限
授業の教育目的・目標	生命倫理の成り立ちと視座を理解し、その上で自分に引き寄せて生命倫理の諸問題を多角的に検討する能力をみがくこと。				
学科の学習・教育目標との関係	大学生として必要な教養と倫理観を身に付ける。				
キーワード	生命 科学 社会 家族 他者 人間 価値				
授業の概要	生命倫理という分野は新しいが、あつかう領域は途方もなく広い。先進的な生命科学の推進や技術応用の是非をジャーナリスティックに問題化するような狭いアプローチも可能だが、この授業ではそれは採らない。あくまで学部生が、自分の人生や身近な社会の中でごくふつうに当たり前のように直面するにちがいないトピックを選んで、ふつうでないものの見方ができるようになり、いろいろな考え方にふれながら自分の思考様式を見直す機会になる。				
授業の計画	第1回： 倫理と倫理学 そして生命倫理と医事法 第2回： 生命倫理の歴史的展開： 生命倫理を決めるのは誰か 第3回： 監獄はなぜできたのか： バイオポリティクス(フーコー) 第4回： 医療倫理1： インフォームド・コンセント 第5回： 医療倫理2： パターナリズム 第6回： 医療倫理3： プライバシーと守秘義務 第7回： 医療倫理4： ケーススタディ 第8回： 性の生命倫理1： 感染症予防と〈自己責任〉 第9回： 性の生命倫理2： 優生学 英国から日本まで 第10回： 死の生命倫理1： ナンシー・クルーザンの事例 第11回： 死の生命倫理2： 〈死ぬ義務〉はあるか 第12回： 家族と生命倫理1： 家族のあり方の変遷と家族の意味 第13回： 家族と生命倫理2： 家族に血のつながりは必要か 第14回： 家族と生命倫理3： ブラジルの日系大家族から見えてくること 第15回： 研究倫理： 不正（捏造・改竄・盗用）以上に大事なこと				
受講条件・関連科目	とくにない。				
授業方法	講義ならびに受講者との自由な意見交換。				
テキスト・参考書	参考書として 服部健司・伊東隆雄『医療倫理学のABC 第4版』メヂカルフレンド社（2018）				
成績評価	毎授業後リアクションペーパー（60％）・期末レポート（40％）。評価尺度は、①論理性、②含意の厚み、③視野の広さ、④批判的・反省的姿勢、⑤切込みの独創性・感性の鋭さ、の5軸で、各20点の総計100点とする。 横断・総合的、建設的、問題を浮き彫りにしている、批判的（自他説の源泉・範囲・限界に自覚的）、受け売りでない、他の立場を顧慮、反論を予想しこれに回答しようとしているものには高得点を与える。なにになが問題だというだけで探究しようとしていない、教科書レベルの理解が不足している、自説の開陳に終始していてその根拠を示さない、対立する観点を顧慮していない、迷走・飛躍がみられるものは低得点となる。				
履修上の注意	教室内での議論の流れ、受講者の関心に応じて授業計画を柔軟に変更する。				